

本願力

横浜別院だより



【宗祖親鸞聖人銅像建立奉告法要・除幕式】

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一―十一ハ

FAXTEL (〇四五) 八四一―三四三四
(〇四五) 八四一―三四二八
(<http://www.yokohama-cotanic.com>)

動き出す

神奈川教化センター

VOL・6

輪番 坂田 智亮

賀正

年がくれても明けても仏法聴聞、念仏相続、これが真宗門徒たる「あかし」である。今年も何卒よろしく願います。

昨年の秋、別院に親鸞聖人の銅像を建立し、その奉告法要を宗祖のご命日に厳修された頂いた。これは、責任役員、加納靖夫氏のご懇念に縁るもので、改めて甚深の謝意を表したい。

因みに、銅像建立の歴史を訪ねれば古くギリシャ四千年前と遡る。しかし、日本で人物像が登場してくるのは、どうも明治以降で全国各地にて激増しているようである。その多くは偉人の顕彰と偉業を後世に伝えるという意味合いが強い。

さて、親鸞聖人の銅像はいかなる意義を持つものであろうか。その像に對面したとき、どのような感覚を抱き何を連想するのか、逼りくるメッセージをどう聞くのか、これは、それぞれの人の持つ想像力に関係があるのだが、

ここが大事なことであるように思う。これを機会に、私はどのような親鸞聖人に遇いたいのか、遇ってきたのだろうか？そのことを考え銅像の前にして、呼び起こしてくる「親鸞」その人を少し訊ねてみたい。

傘を目深くかぶり、墨袈裟、杖と念珠を両手に持ち、わらじという出で立ちは、『しかればすでに僧にあらず俗にあらず。このゆえに「禿」の字をもって姓す』つまり、流罪以降の親鸞聖人、名もなき民衆の中に帰って行かれた親鸞聖人像であることは言を俟たない。

「うみかわに、あみをひき、つりをして、世をわたるものも、野やまに、ししをかり、とりをとりて、いのちをつぐともがらも、あきないをもし、田畠をつくりてすぐるひとも、ただおなじことなり」

歎異抄

あらゆる厳しい現実の中で迷い、生死流転せる五濁の世を自らの住家とせざるを得ない、悲しみ苦しみ悩んでいる人々を我らとして、大地にしっかりと根差して踏み出されているお姿、ともに安立できる地平を求めておられる宗祖を偲ばせていただき、感慨深い不思議な共感をもつのは私の傲りであろうか。「御同朋・御同行とこそかしずきておおせられけり」あらゆる人々に寄り添う姿勢こそが、この混沌とした経済格差拡大社会の中でいかに大切か？忝くも別院・神奈川教化センターのこれからの歩みに示唆を頂戴することになったように思う。

センター事業である「元気な寺づくり講座」がいよいよ始まった。グリーフケア事業も始まる、センターの活性化と共に別院が元気になり、希望を持つていろんな夢を描く。そんなセンターの運用と別院づくりを模索し続けたい。

仏前結婚式(十一月二十六日) く遠く宿縁を慶べく

昨年十二月に続き、別院の
本堂において仏前結婚式を行
ないました。

仏前結婚式とは、仏さまの
尊前で夫婦となることを誓い、
愛情や財産といった条件付き
の結びつきではなく、数限り
ない縁によって二人が出会い・結ばれたこ
とを確かめあう大切な儀式と言えます。

坂田輪番の司婚のもと、両家ご家族に見
守られながら、永江雄二さん、小野沙樹さ
んは、阿弥陀様のご尊前で、誓いのことば
を述べられました。「遠く宿縁を慶べ」と
いう言葉が結実した瞬間に思えました。

仏前結婚式をご希望の方は別院までご連
絡ください。
(文責 家本)



院議会(臨時)開催報告

【招集日】二〇一七年十二月七日

【議案】

「第一号 任期満了による責任役員を選定
について」
全会一致で承認可決

「第二号 横浜別院・神奈川教化センター
の規約変更並びにセンター拠出金について」
全会一致で承認可決

【責任役員】

橋本正博 氏(横浜組智廣寺住職)
加納靖夫 氏(本願寺横浜別院門徒)

〔任期二〇一七年十二月二十六日から
二〇二〇年十二月二十五日まで〕

元気なお寺づくり講座 開講

講師 竹原 了珠 師

十二月十四日、すっきりした冬晴れの中、
いよいよ第一回「元気なお寺づくり講座」
が開講されました。元気なお寺づくり講座
は本山の教化施策の一つであり、全五回の
開催となっています。開講にあたり、本山
から草野参務、禿企画調整局長、中川東京
教務所長が来院されました。まず始めに、
草野参務からご挨拶がありました。続いて坂田輪
番より挨拶がありました。最後に禿局長か
ら講座の主旨や願いなどのお話をいただき
ました。

参加寺院は、別院を含めて五ヶ寺、十九
名が参加しています。参加者は三班に分か
れて「寺業計画書」を作成するための作業



→草野参務



→禿局長

を行ないます。寺業計画書とは、それぞれ
のお寺の永続を導くために作成する寺業計
画であり、その作成と実行に必要なプロセ
ス全般のことを指しています。全五回の講
座を通して、各寺院が参加者と共にそれぞ
れの寺業計画書を創造していく作業を行
います。

講師は、竹原了珠禿企画調整局寺院活性化
支援室支援員が担当し、全五回の講座を行
います。竹原先生は、自己紹介の中で自身
の出身地である石川県七尾市は過疎化が進
み、能登半島全体が「消滅可能都市」であ
るとお話しされました。消滅可能都市とは、
二〇一〇年から二〇四〇年の間に二十代か
ら三十代の女性が半数以下になる都市をい
います。横浜市においても、二〇一九年に
人口がピークとなり、二〇一九年以降は人
口が減少していくと統計によって算出され
ていると紹介されたのがとても印象的でし
た。また、一般社団法人お寺の未来「寺院・

僧侶に関する生活者の意識調査」が行った「寺院や僧侶に期待していますか？」というアンケート結果では、約半数の人が「どちらでもない」を選んでおられるそうです。その結果から、今後のお寺の頑張りによって世間の期待度が好転していく可能性あるとお話がありました。今後、参加者がそれぞれのお寺の使命をはっきりさせ、実施可能な寺業計画を作成することによって、社会に必要とされるお寺の在り方が見えてくるのが大切であると感じました。

第一回目の内容は、「外部環境分析」ということで、自分のお寺を囲む環境はどのような状態か、その環境は、これからどのように変わっていくのかという全体像を具体的に把握し、機会と脅威を抽出することで、班ごとに、機会と脅威を出し合いました。

今回のテーマは、「無形の価値の視点から自坊の強みを見出し、進むべきお寺の将来像を描く」です。
(文責 家本)



→講師 竹原了珠師



→講座の様子

『グリーンフケアを学ぶ連続研修会』

【日時】 第一回 三月八日(木)

第二回 四月五日(木)

第三回 五月十日(木)

※全日程・十時三十分～十六時三十分

※連続三回の受講を原則とします。

【講師】 尾角光美 氏(リヴオン代表理事)

水口陽子 氏(リヴオン理事)

【会場】 本願寺横浜別院・研修室

【受講者】 定員二十名 ※門徒の参加可

【参加費】 一万二千元(全三回分)

【リヴオンについて】

リヴオンは、代表の尾角光美が十九歳の時に母を自殺で亡くしたのをきっかけにあしなが活動を経て「いつ、どこで、どのような形で大切な人を亡くしても、その人が必要とするサポートを確実に得られる社会の実現」を目指して立ち上げた社団法人です。(ホームページより抜粋)

※詳細については、別院まで。

《別院声明儀式研修会のご案内》

《二〇一七年度第四回声明儀式研修会》

【日時】 一月十九日(金)

午前十時三十分～午後四時

【講師】 鈴木友好 師(本山・堂衆)

【議題】 「報恩講の儀式全般について」

【参加費】 千円 ※事前申し込みは不要です。

《神奈川四ヶ組行事予定表》

《横浜組》

《横浜組門徒研修会》

【第一回】

【日時】 二月八日(木) 午後一時半～

【講師】 一楽 真 師(大谷大学教授)

【第二回】

【日時】 五月三十日(水) 午後一時半～

【講師】 瓜生 崇 師(京都教区玄照寺住職)

【会場】 本願寺横浜別院(両日共)

《三浦組》

《二〇一八年寺子屋》

【第一回】

【日時】 二月十六日(金) 午後一時～

【講師】 藤原 正 寿 師(大谷大学准教授)

【会場】 西來寺(横須賀市不入斗町)

【第二回】

【日時】 三月六日(火) 午後一時～

【講師】 荒山 淳 師

(名古屋教区教化センター主幹)

【会場】 浄栄寺(横須賀市吉倉町)

【第三回】

【日時】 四月九日(月) 午後一時～

【講師】 黒田進 師(長浜教区満立寺住職)

【会場】 來福寺(三浦市南下浦町上宮田)

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年1月～2月

～どなたもご自由にお参りください～

定例法話 午後1時30分より

1月9日(火)横浜組 願西寺 佐々木健太郎 師
 2月9日(金)横浜組 長慶寺 中村 良照 師
 2月28日(水)別院 輪 番 坂田 智亮 師

横浜別院同朋の会 午後1時30分より

2月18日(日)座談を中心に行ないます。
 また2018年度の計画を話し合います。

※1月18日の同朋の会は休みです。

※1月28日の定例法話は「東京教区報恩講」のため休みです。

東京教区報恩講団体参拝のご案内

【日 時】 2018年1月28日(日)
 【集合時間】 9時
 【集合場所】 本願寺横浜別院
 【行き先】 東本願寺真宗会館(練馬区谷原)
 【会 費】 3,000円(昼食、交通費込み)
 【定 員】 15名(定員になり次第締め切り)
 【交通手段】 マイクロバス(15人乗り予定)
 【解散時間】 17時30分
 (別院での解散となります)

毎年、別院同朋の会の方を中心にお参りしております。ぜひお気軽にご参加ください。

ご希望の方は別院までご連絡ください

(電話 045-841-3434)

担当：家本

**本願寺横浜別院・神奈川教化センター
「2017年度公開講演会」**

3月3日(土)14時より16時まで

【講 師】^{みとめただお}三留理男 氏(報道写真家)

【講 題】「時代の目撃者」

【場 所】本願寺横浜別院・研修室

【参加費】1,000円

【講師紹介】

1938年生まれ。報道写真家。日本大学芸術学部中退。在学中に写真集『小児マヒの記録』を発表。以後、アジア・アフリカを中心に取材を続け、1982年、「国境を越えた子どもたち」をはじめとする一連の作品によって第三世界の国境線上の状況を広く世界に伝えたことで「第1回土門拳賞」を受賞。2013年出版社具象舎設立。

【開催の願い】

昨年に引き続き、今年も公開講演会を伝道部主催で開催することになりました。

三留氏は、報道写真家として、長年世界各地を飛び回り活躍され、先の東日本大震災においても、いち早く現地入りされ、ありのままの姿をフィルムに収められています。これまでの経験を通して、その時代のお話をさせていただきます。

事前申し込みは不要です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。昨年を振り返りますと、様々な出来事がありました。まず、親鸞聖人像が建立されて、別院の景観が一変し、通りすがりの道ゆく人が、「これは一体なんだ」といった顔で、まじまじと親鸞聖人のお顔を見られていきます。

事業に関しては、「元氣なお寺づくり講座」が始まり、未来の別院像を模索していくことになりました。別院の周りの環境も少しずつですが変化があります。飲食店が少なくなり、古いアパートが取り壊され、一戸建ての家が建ちます。また、地域の高齢化による空家も目立ち始めました。過渡期という言葉だけでは済まない時代が、近づくに思いました。

(家本)

